

令和2年度学校評価（職員、生徒、PTA）

番号	領域	評価の観点	実施目標	職員 評価	生徒 評価	PTA 評価	取組への意見	改善への方策		
1	安全・安心で教育活動に導いた環境づくりを推進する	主体的に清掃活動に取り組み態度を培う	教室の清掃をきちんと行う。	A	A	A	毎日、担任・学年によるチェックができていた。ゴミ箱が溢れている部活動がある。	下校当番による窓の施設確認をしやすくするために、カーテンを開ける。ゴミを捨てに行く確目を決める。		
2			トイレ・廊下の清掃を、きちんと行う。	A	A	A	比較的、清潔感を保っていた。長らくやっていない場所がある。清掃用具が足りないため、担当人数を増やせない	体育館外トイレの清掃の徹底。週に2回など、ルールを作る。		
3			ゴミの分別・減量に努める。	A	A	A	教室は問題なし。特定の人だけが頑張っているようなので、全体に周知と協力が必要だと思う。	職員室のゴミを減らす。		
4		生徒の安全確保に努める	生徒の安全確保に努める	個人面談を学期に1回以上実施する。	A	A	A			
5				入学前に中学校訪問を行い、生徒情報を把握する。	B			コロナのため、できなかった。		
6				いじめアンケートを学期に1回以上実施する。	A	A	A			
7				キャンパスカウンセラー等第三者を交えた事例検討会・研修会の実施。	A		A	1学期に行うことができた。情報交換が、カウンセラー⇒養護⇒学年と、進められているので、カウンセラー⇒全体に伝える場の設定がある。	事例・解決策を、定期的に提案する。	
8				生徒の悩みに対して、積極的な相談活動を行う。	A	B	A	学年・保健部が中心となり、よくできていた。	事例・解決策を、定期的に提案する。	
9				水質検査・空気検査など、必要に応じて環境を整える。	B			定期的に、できていた。	保健委員の活用を考えたい。	
10				不登校生徒の掌握と情報共有を確実にする。	A			学年・保健部が中心となり、よくできていた。	事例を、定期的に伝える。	
11				生徒会が中心となり、通学マナーの向上、交通ルールの徹底について生徒目録での啓発運動の実施。	B	B	B	活動を、見たことがない。マナー指導は難しい。よく、苦情がくる。	通学路に、教員が立って指導する。校門で、挨拶運動をしてはどうか。	
12				スマホの使用方法など生徒目録での、生徒集会等での啓発運動の実施。	B	B		「生徒目録」で考えさせることは、大変難しい。		
13				人権教育・防災教育の推進	人権教育・防災教育の推進	人権教育に係るロングホームルーム計画の策定。	A			
14		教員への人権研修会の開催。（年1回）	B				B			
15		スマホ等インターネット上における誹謗中傷、集団的いじめをゼロにする。	A			A	B	すべては把握できていないのではないか？		
16		防災マニュアルの改訂を図り、緊急時に対応した職員間及び生徒、保護者への連絡体制の確立を図る。	B				B	教室への掲示あり。セコムの警報誤作動が、稀にある。		
17		防災意識を高めるため実際の災害に即した避難訓練を実施する。	B				B	コロナのため、できていない。	実際に訓練できなくても、放送等での意識疎通が必要ではないか。	
18		防災講演会の実施。（年1回）	B			B	B			
19		生徒の自尊感情を高めることを心がける。	A			B	B		細かく、生徒一人ひとりの目標設定・評価をする。	
20	学習時間の確保・学力の向上	学習時間の確保・学力の向上	週末課題や予習・復習の習慣化により、すべての生徒の家庭学習時間を最低1時間以上にする。	B	B	A	家庭学習時間が、少ない。課題をこなすことが、目的となってしまう。			
21			考査前の補習、質問会、学習会を実施する。	A	B	B	やっている科目と、そうでないものがある。			
22			生徒に「学習の記録」を継続的に書かせる。	A	A	B	目標自体が、不要かと思われる。			
23			授業規律の確保。（チャイム前着席、始業時あいさつの徹底、机の上に不要物を置かせない等）	A	A	A	チャイムでの着席等、教員間での意識の差がある。	チャイム前着席で、良いと思います。教員も、チャイム前に教室に行く。体育後の、着替える時間に難あり。		
24			教科書等の持ち帰りを徹底させる。	A	A	A		下足箱に置くらぬなら、机の中に置かせてもよい。		
25	生徒の目指す進路希望の実現	生徒の目指す進路希望の実現	考査前、考査中の「NO部活デー」の積極的実施。	A			公式戦がないのに、考査中に部活動をするのが理解できません。	学校全体で、考査前の練習を許してはいけない。		
26			本校の生徒の実態に即した進路指導計画を作成する。	B			現状をよく見て、必要である指導とそうでない指導を、整理すべきである。			
27			模試等の分析を行い、成果や課題について全職員で共通理解を図る。	B		B	全職員での、共通理解まではできていない。	共有する時間を持つ。		
28			進路指導通信等を活用し、生徒への適切な情報提供を行う。	B	B	C				
29			進路講演会や進路ガイダンス等の開催により、職業観・勤労観を高めるキャリア教育の充実を図る。	B	B	B	コロナのため、3年生以外はできていない。			
30	教職員の資質向上	教職員の資質向上	全職員による公開授業の実施と指導法についての研究協議を積極的に行う。	C		C	全体では、できていない。	実施してもよいと思う。		
31			評価方法等の研究を年度ごとに行う。	B		B	全体では、できていない。	実施してもよいと思う。		
32			シラバスの見直しを年度ごとに行う。	A		A	改善すべきである。	シラバスと年間指導計画は、新年度前に作成する。		
33	挨拶等規範的行動を身に付け、自ら学ぶでいこうとする意	基本的生活習慣の確立	制服の正しい着用について、全職員で指導に当たる。	A	A	A	夏服(上)を、スカートに入れるのは正しいか？	正しい着こなし方を、共通理解させる。		
34			全校集会での注意や通学指導の実施により通学マナーの向上を図る。	B		B	全校集会が、できていない。「ルール」の指導ならできますが、「マナー」の指導が難しい。生徒に、考えさせる必要がある。	地域との連携も必要である。		
35			朝の挨拶をする習慣を育成する。	A	A	A		地域との連携も必要である。		
36			始業ベル前の着席を奨励する。	A	A	A				
37			部活動加入率を85%以上にする。	B	B	B				
38	本校生としての自覚と誇りの醸成	本校生としての自覚と誇りの醸成	高校生ふるさと貢献活動に参加する生徒を、全体の70%以上(約500人)にする。	B		B				
39			校歌をしっかりと歌えるようにするなど、本校生の誇りと自覚を高める。	B		B	今年着任してから、校歌を聴いたことがない。	全校放送で、聴く機会をつくる。		
40			学校の特色化について	本校を志望する生徒が増えるよう、オープンハイスクールや特色類型説明会等の内容の充実を図る。	B	B	B			
41	その他	勤務時間の適正化について	毎週定時退勤日を設定し、勤務時間の縮減を図る。定期考査中は「定期退勤時間」(10分超過)とするなど、年休・代休等が取りやすい環境を整える。	B			勤務時間の縮減のため、業務内容の整理が必要である。	運動部顧問の定時退勤不可の常態化をなくす。		
42			広報について	学校ホームページの更新を積極的に行う。	B		A	各部のページが、あまりできていない。	更新マニュアルを共有する。	
43			教職員の連携について	教職員の連携について	「教育実践と研修のまとめ」(年度末)の作成。	B			目標自体が、不要かと思われる。	
44					拡大部会の定期的開催。	B			部によって異なっている。	毎月、定例開催をする。